

# 右側通行? 左側通行?

「人は右、車は左」と言われている歩行者や自動車の通行ルールについて



取締役 保険研究部 研究理事 中村 亮一  
nryoichi@nli-research.co.jp



なかむら・りょういち  
82年日本生命保険相互会社入社、同社保険計理人等を経て  
15年ニッセイ基礎研究所、16年より現職。  
日本アクチュアリー会正会員。  
東京大学大学院数理科学研究科非常勤講師を兼務。

## はじめに

「人は右、車は左」と言われて、何となく「歩行者は右側通行」するものだという意識が根付いている。私自身もつい最近改めて感じたのだが、「歩行者は右側通行」の意味するところが、必ずしも十分に理解できていない。そこで、歩行者や自動車の通行ルールについて考えてみた。

## 道路交通法の規定

「歩行者は右側通行」のルールは、道路交通法の第10条第1項に規定されているが、これはあくまでも「歩道等と車道の区別の無い道路」において適用されるルールである。歩道及び十分な幅を有する路側帯等では適用されず、法律上は、歩道及び路側帯上の歩く位置についての規定は存在しない。このため、歩道及び路側帯を歩く場合には、一般的な交通マナー等に従うことになる。この場合、「対面交通」の考え方に基づいて、歩く位置を決定するのが望ましい、と思われる。

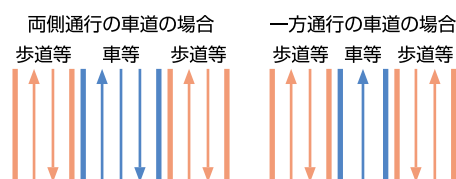
## 対面交通のルール

「対面交通」とは、自動車と歩行者が対面して通行することを指すが、これにより、自動車と歩行者が相互を認識しながら通行することができる。

現在の歩行者の通行ルールは、自動車の左側通行に対面する形で右側通行となっている。

この「対面交通」のルールの考え方の趣旨に則れば、例えば、両側通行の車道の左側の歩道を歩いている場合には、歩道の左側を歩くことが適当ということになる。これにより、自動車に対向する歩行者が車道に

近い側を通行することになり、例えば対向車が暴走等して、歩道に乗り上げてくるようなケースでも、それを事前に確認しやすい状況に置かれることになる。同じ理屈で、車道の右側を歩いている場合も、歩道の左側を歩くことが適当ということになる。



ただし、こうしたルールや考え方に法的拘束力があるわけではないので、状況に応じて、臨機応変に対応することが求められることになる。

## 何故、歩行者は右側通行なのか

### —元々は、人も車も左側通行だった—

そもそも、日本も、以前は、歩行者も自動車と同じく左側通行だった。

- これには、諸説あるが、例えば、
- ①江戸時代に、武士が左の腰に刀を差していたため、刀の鞘同士が触れ合うのを避けるため
  - ②心臓が左側にあるとの認識から、人間の意識の上で、左側が接触することを避ける本能があるから
- とされている。

車の左側通行は、馬から引き継がれているが、以下の理由とされている。

- ①馬に乗るときには、刀が邪魔にならないように、左側から乗ることになるが、そのためには左側通行がよい
  - ②馬同士がすれ違う時に、刀が触れ合うのを避けるため
- こうした暗黙のルールが、1872年に、英

国からの技術支援で鉄道が導入された時に、「鉄道は左側通行」が正式なものとなった。その後、東京で警視庁による通達が発せられ、「歩行者は左側通行」というルールが定められ、さらに、1924年に法律に規定された。

## 何故、歩行者は右側通行なのか

### — GHQの指導で変更された —

それが、自動車の交通量の増加に伴い、昭和24年に、占領軍GHQの指導で、対面交通の考え方に基づいて、「歩行者は右側通行」に変更された。

当時から既に、米国では「自動車は右側通行」だったので、GHQは「自動車を右側通行」に変更するように要求したが、日本が「道路上の施設の変更や車両の乗降口の変更等に天文学的な財政支出を必要とし、また長期間を有する」との理由で反対したため、結局は「歩行者を右側通行」に変更することで了解した、とのことである\*。

これだけ、米国との関係が深い日本において、なぜ「歩行者や自動車の通行ルール」が異なっているのか、不思議に思われていた方も多いと思うが、これで一定納得できたと思われる。

## ルールについて

世の中には数多くのルールが存在している。我々はそれらを何気なく当然のものとして受け入れている。時には、それらのルール策定に至った歴史的・文化的背景等の詳細を調べてみることも、そのルールの持つ本当の意味や奥深さを知る意味で、結構大事なことだと改めて感じた次第である。

[\*] 道路交通問題研究会「道路交通政策史概観」